

公立岩瀬病院 新病棟



所在地：福島県須賀川市北町20番地
 延床面積：14,144㎡
 構造・規模：鉄筋コンクリート造、地下1階地上7階建
 病床数：245（一般239床、感染症6床）
 設計：株式会社藤総合計画 東北事務所
 施工：建築／安藤建設(株)東北支店
 電気／太平電気(株)
 竣工：平成22年12月

S102

明治5年の創設以来、須賀川地域の地域医療を支えてきた公立岩瀬病院。
 昭和33～34年に建築された別館病棟が狭隘化・老朽化したため新病棟に改築。
 間接照明をはじめ眩しさを抑制した器具の採用で、患者にやさしい光環境を確保しています。

狭隘化・老朽化した病棟を人や環境に配慮した病棟に改築

明治5年に近代医学導入のために創設された公立岩瀬病院は、多くの優秀な医学者を輩出するとともに、地域の拠点病院として、地域医療の確保と医療水準の向上に努め、地域にとって必要不可欠な存在となっています。従来の施設は、別館病棟が昭和33～34年の建築、本館が昭和41年の建築で老朽化しており、緊急に整備する必要のあった別館病棟が改築されました。1階に救急外来・診察室、内視鏡科、放射線科、2階に手術室、医局、3階から7階に245床を有する病棟で構成されています。

蛍光灯のカバー付器具や間接光を随所に採用した、患者中心の照明計画

診察室の照明は、医師が診察しやすい空間づくりだけでなく、ベッドでの治療を配慮して蛍光灯埋込カバー付器具による拡散光で眩しさを抑制しつつ、治療に必要な明るさを確保しています。放射線科部門の照明は、蛍光灯のコーナー器具を配置して地あかりを確保し、電球形蛍光灯ダウンライト調光形で検査内容に応じた明るさをコントロールしています。

待合室の照明は、患者の不安感を和らげ、落ち着きある雰囲気を出するため、光に方向性のない蛍光灯カバー付スクエア器具を採用。長時間待ちにも配慮し、雑誌が読める平均照度500lxを得ています。救急処置室の照明は、ベースにはスタッフの目の疲れを軽減するよう壁面にも十分な配光が行き渡る蛍光灯埋込カバー付器具調光形を、無影灯を配備した治療台を囲んで配置。患者ごとの容態に応じた調光を可能とし、ベース照明全点灯時の平均照度は1,000 lx以上が得られています。

病室照明は、ベースにはコーニス照明による間接光でグレアのない柔らかな明かり空間を創出。ベッドの頭上部には間接光・読書灯・常夜灯を一体化したホスピタルブラケットを採用しています。24時間体制のスタッフステーションは、廊下にはLED電球ダウンライトとウォールウォッシャーダウンライトを、カウンター上には上下配光形蛍光灯器具を配置。内部のスタッフルームには初期照度補正タイプの蛍光灯埋込カバー付器具をライン配置し、疲れの少ない照明環境をつくり出しています。



放射線科の照明 蛍光灯のコーナー器具で地あかりを確保し、電球形蛍光灯ダウンライト調光形で検査内容に応じた調光を可能



不安感を軽減するため蛍光灯埋込スクエア器具のカバー付を採用した待合室



開放式天窗があるプレイルーム 平天井部に蛍光灯ダウンライトを配置



診察室の照明



治療室の照明



エレベーターホールの照明



救急処置室の照明 蛍光灯埋込カバー付器具調光形を採用し、治療台を囲む形で配置。患者ごとの容態に応じた調光が可能



病室の照明 ベースにコーニス間接照明、ベッド頭上部にはホスピタルプラケットを採用



間接照明を主とした廊下の照明



看護部長室には蛍光灯スクエア器具カバー付を採用



スタッフステーションの照明 カウンター前の廊下はLEDダウンライトとウォールウォッシャーダウンライトを、カウンター上は上下配光形蛍光灯器具を、奥のスタッフルームには初期照度補正タイプの蛍光灯埋込カバー付器具をライン配置

主な照明器具一覧

設置場所	器具名	形名	台数	ランプ・備考
室内	埋込器具	FHR-42478-PK9	94	32WHf蛍光ランプ×2
	埋込器具(タイマー内蔵)	FHR-42945K-PK9	29	
	埋込器具(乳白カバー付)	FHR-42967K-DBH	66	
	埋込器具(乳白カバー付)	FHR-54326K-PN9	26	45Wコンパクト形蛍光ランプ×4
	ダウンライト	FHD-31016-PM9	286	32Wコンパクト形蛍光ランプ
	ダウンライト調光用	FHD-31016-PD9	33	32Wコンパクト形蛍光ランプ
	ダウンライト	FHD-21015Y-PD9	51	24Wコンパクト形蛍光ランプ
	ダウンライト	ID-76020(S)	135	15W形ネオボールZ
	LED常夜灯	LEDD-00003N-LS1	146	LED 消費電力0.9W